様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３０１１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６１７０１３

研究課題名（和文）北海道における朝鮮人の移住　アイヌ民族とつながりにおける重層的アイデンティティー

研究課題名（英文）Korean immigrants in Hokkaido:Muti-layered Identity of Pelationship between Ainu people

研究代表者
石　純姫（Seok, Soon hi）

苫小牧駒澤大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：６０３３７１０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　前近代期末期から近代期初期、戦時期、戦後においての朝鮮人の移住と定住化の形成過程について調査を行った。北海道においてはアイヌ民族との非常に緊密な繋がりを確認した。また、北海道立文書館から明治16年、朝鮮人に対して、鳥獣猟を許可する公文書を発見した。これは明治初期における朝鮮人の定住化を示唆するものと考えられる。朝鮮人の移住と定住化は、幕末や明治期の早い時期から進んでおり、従来の説を根底から覆すものと考える。
また、歴史的背景は異なるが、サハリンにおける朝鮮人とアイヌ民族、その他の先住民との繋がりとアイデンティティーの重層性と複雑さを考察した。

研究成果の概要（英文）：I researched the immigration of Korean people and the process of their settlement in Hokkaido,form the pre-modern period and the present.The relationship between Korean and the Ain people has been actually very close,mutilayerd,and complicated.
I found evidence(testimnies and primary historical materials kept in the Hokkaido Prefectual Archives)supporting the theory that the settlement of Krean people in Hokkaido had taken place much earlier than is generally accepted.Although the historical backgrounds were different,I conformed the fact that there is a similar relationship between Kreans and Ainu.

研究分野：植民地研究

キーワード：朝鮮人　アイヌ民族　移住　定住化　重層性　アイデンティティー

１．研究開始当初の背景

在日コリアンを形成する朝鮮人の移住と定住化については、戦時時の強制的労務偶動員を中心とした多くの研究の蓄積があるが、近年では、近代期帝国日本における人口移動全体についてまとめた研究が出されるようになった。

北海道についての朝鮮人の移住については、筆者の 2004 年からの調査により、明治のごく初期からアイヌ民族との深い繋がりが認められた。それは朝鮮人の定住化のごく早い時期での婚姻関係（入籍という形態ではないが）や、定住化に関するアイヌの人々のいくつかの証言から明らかにされたことである。

しかし、朝鮮人の移住がどのくらいの規模なのか、どのような歴史的背景を持つのかについての詳細は、さらに多くの聞き取り調査と文献資料収集が必要であった。

２．研究の目的

（１）　一般的には、均質で単一な文化・社会だと思われがちな日本にも、少なくない外国人や異なる文化を持つ人々が共存している。そのマイノリティ研究においても、アイヌ民族や在日コリアン、その他の多くのマイノリティは、それぞれ独立した単一なマイノリティとして存在し、実体化した個別のものとして理解されている。しかし、北海道におけるアイヌ民族と朝鮮人の繋がりは、前近代期から現在に至るまで、非常に複雑で重層的な関係性として捉えることが必要である。それは「純粋な」マイノリティという虚像の中で、新たな差別や排除を再生産させることにつながり、重層的なアイデンティティーを有する人々にとっての抑圧となっている。

本研究では、こうした重層的なマイノリティの形成過程を明らかにすることで、近代におけるアイヌ史の見直しを行うことを目的とする。

（２）現在の在日コリアンが定住化した形成過程においても、アイヌ民族との関係性を詳細に捉えることは、在日コリアン研究においても新たな視点を提示するものと考える。そしてそれは、日本社会・日本文化の多様性という視野からも、新たな展開をもたらすものと考える。

３．研究の方法

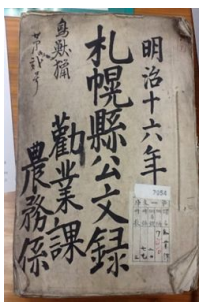
（１）アイヌと朝鮮のルーツを持つ方々からの聞き取り調査を行った。北海道日高地方、平取を中心に新ひだか町静内、む川町、その他苫小牧市や札幌市などの都市部、更にサハリン、韓国などでも聞き取り調査を行った。また調査の過程で明らかになった幕末期や明治期に朝鮮から北海道への朝鮮人の移住について調査するため、埼玉県東松山市、静岡県駿東郡、徳島県徳島市・鳴門市、九州大分県中津市や長崎県対馬市などにおいても、聞き取り調査と現地調査を行った。

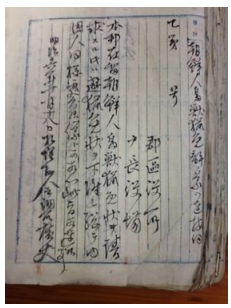
（２）前近代期末期から近代期にかけてのアイヌ民族と朝鮮人の移動に関する文献資料収集を行った。主に北海道立文書館、防衛研究所戦史研究センター、北海道立図書館、大分県中津市歴史資料館、長崎県対馬民俗資料館、ロシア共和国サハリン州ポロナイスク町立図書館、釜山韓国近代歴史館等において関係文献資料の収集を行った。

４．研究成果

（１）朝鮮人の定住化の最も早い事例としては、幕末の 1860 年代初期に朝鮮から大量の移住者たちが、大分県中津市に定住化したという証言である。この時期は、朝鮮人がロシア沿海州へと大量に移住する時期であり、これはロシアの公文書から明らかにされている。同地にて聞き取り調査、並びに文献資料を収集したが、日本における公的な文書は確認できず、口承で以下のような証言を得ている。代々、朝鮮から移住してきて、明治 5 年の壬申戸籍の際に日本戸籍を有することとなり、日本人として定住しているというものである。

（２）北海道立文書館蔵の『戊申八年より巳年八月に至る御布告書』、『明治元年　触書留裁判』により、江戸時代から対馬藩が対応してきた朝鮮と日本の間の漂流・漂着に関して、明治元年以降も同様に丁重に取扱う旨の通達が出されていたことを確認した。また、同文書館所蔵『明治十六年　札幌懸公文録　勧業課農務係　鳥獣猟』から、「朝鮮人が鳥獣猟の許可申請をした場合には、本邦人同様に許可すべし」とする公文書を発見した。





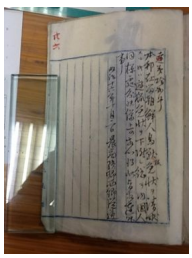


図１．北海道立図書館蔵「本邦在留朝鮮人、鳥獣免状請求ノトキハ遊猟免状下付方ノ件（札幌懸）」明治 16 年

この文書は、1883 年（明治 16 年）に、既に北海道において、朝鮮人が鳥獣猟の許可申請をしていたことを証明するものであり、一定数の朝鮮人が存在していたことの証拠となる。

（３）日本の植民地支配や戦時期において、移住を余儀なくされた、或は強制的労務動員として連行された朝鮮人や中国人が北海道の各地に存在した。その苛酷な労働現場から脱出した朝鮮人や中国人をアイヌの人々が匿い、脱出を支援した事実を聞き取り調査から数多く確認した。その状況の中、朝鮮人や中国人の男性がアイヌの女性と所帯を持ち、定住化していった例も平取、穂別、静内では少なくないことも証言から得ることが出来た。そして、それらの人々は、現在に至るまで定住化している。アイヌ民族の文化伝承者として活躍する女性の中には、朝鮮人の父親を持つ方々も少なからずいる。しかし、そのアイデンティティーは、ほとんどがアイヌ民族であるということは、重要である。朝鮮のルーツを持つことは、現在においても、忌避されるものとして存在している。

（４）日本統治下樺太でのアイヌ民族と朝鮮人との間、日本人とアイヌ民族との間、日本人とアイヌ民族との間に婚姻関係が多数あり、その関係性は非常に複雑で重層的である。日本の敗戦後、日本人は日本に帰国できたが、連れ合いである朝鮮人やその間に生まれた子どもさえ、日本への移住は許されず、離散家庭が数多く存在した。残留を余儀なくされた朝鮮人の人々の戦後の実態について、2015 年 8 月に聞き取り調査を行った。更に 9 月、永住帰国を許可されたサハリン残留韓人の方々の聞き取り調査を行った。いずれも、日本統治とソ連・ロシア時代を経た朝鮮人・アイヌ・日本人・ウィルタなどの多様で複雑なアイデンティティーの交錯を持つものであった。

（５）日本の植民地支配から解放された朝鮮では、朝鮮半島を分断する朝鮮戦争が始まるが、その最初の契機が、済州島四・三事件である1。南北を分断したまま、アメリカの傀儡軍事政権を承認するための選挙に抵抗した済州島の人々が北朝鮮からの反共組織と親米政権によって、大量虐殺されたものである。

韓国においても、四・三事件のことは語ることを憚られるものであったが、民主化に伴い、この事件の検証が進んだ。近年では国家として大規模な慰霊式典を開催し、慰霊の場を設置されている。2014 年 3 月 31 日から 4 月 4 日に、事件についての現場調査と文献資料収集を行い、慰霊式典に参加した。この事件で虐殺された遺体が対馬に漂着し、大量の遺骨が現在対馬市厳原の太平寺に保管されている。対馬調査の際、太平寺住職宮川長己氏から、詳しい経緯について伺った。

　対馬は、現在、韓国釜山からの観光客を迎えているが、江戸時代の善隣友好を掲げながらも、韓国との関係性には微妙で複雑なものがある。対馬歴史民俗資料館での文献資料収集を行うと共に、対馬全域での聞き取り調査を行い、フェリーで韓国釜山市に渡った。釜山市においては、江戸時代の宗家との交易の場であった草梁倭館の跡地を確認し、釜山近代歴史館での現地調査と文献資料収集を行った。近代の歴史認識において、日韓の間ではいまだに共有できる部分が多いとは言えない。しかし、江戸時代の友好的な関係を伝える対馬と釜山における現在の交流は、今後の日韓の友好へのひとつの布石となると言える。古代から近世、近代、現在に至るそれぞれの時代において、対馬と朝鮮・韓国の関係性が非常に緊密なものであることが確認された。

（６）調査の過程で、北海道において明らかにされた、先住民アイヌの人々と植民地支配下の朝鮮人が緊密な関係を持っていたことと同様に、中南米、北米においても、アフリカ奴隷とアメリカ大陸の先住民たちが、深い繋がりを持っていたことも、明らかになった。「ブラックインディアン」と呼ばれる人々である2）が、現在、そのアイデンティティーは希薄化され、それぞれの居住地での国民としての権利を保持し、アイデンティティーも所属する国家の国民へと移行している。アメリカ大陸の先住民と奴隷の繋がりは、アイヌ民族と朝鮮人や中国人との繋がりと非常に類似しており、その重層性や多様性は帝国主義がもたらす普遍的な関係性といえる。

＜引用文献＞

史料

① 『明治元年　触書留裁判所』北海道立文書館蔵

② 『戊申八年より巳年八月に至る御布告書』

③ 『明治十六年　札幌懸公文録　勧業課農務係　鳥獣猟』

著書・論文・報告書等

① 朝鮮人強制連行実態調査報告書編集委員会・札幌学院大学北海道委託調査報告書『他移動と朝鮮人労働者』、ぎょうせい、1999

② 蘭信三編『帝国日本をめぐる人国移動の国際社会学』不二出版、2008

③ 石純姫「アイヌ集落への朝鮮人の定住化の形成過程について」、『前近代アイヌ民族における交通路の研究（胆振・日高Ⅰ）』2004 年度財団法人アイヌ文化振興・推進機構研究助成（中規模研究）報告書、2005、11－30

④ 石純姫『胆振・日高地方のアイヌ集落における朝鮮人の定住化について―近代化のなかのアイヌ民族と朝鮮人―』2005 年度アイヌ文化振興・研究推進機構研究助成（財ア機構第 214－4 号）報告書、2006、1－31

⑤ 石純姫「北海道における朝鮮人の定住化とアイヌ民族」『東アジア教育文化学会年報』第 3 号、2006、1－8

⑥ 石純姫「前近代期の朝鮮人の移動に関する一考察―北海道にける在日朝鮮人の形成過程とサハリンアイヌの関係を中心

に」『苫小牧駒澤大学紀要』第 18 号、2007、145－166
⑦ 済州島四・三事件を考える会・東京編[2010]『済州島四・三事件　記憶と真実』新幹社
⑧ 済州四・三件研究所編・許榮善著・及川ひろ絵・小原つなき共訳『済州四・三』民主化運動記念会、2006
⑨ 文京洙『済州島四・三事件―「島のくに」の死と再生の物語』平凡社、2008
⑩ William Loren Katz[2012]*Black Indians －A Hidden Heritage*, New York

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４　件）
① 石　純姫、「帝国と植民地における先住民と奴隷（強制的労務者）―東アジアと北・中南米における比較―」、『苫小牧駒澤大学紀要』、査読無、第 31 号、2016、37－62
② 石　純姫、「近代朝鮮人の移住と定住化の形成過程とアイヌ民族―淡路・鳴門から日高への移住に関して」、『アジア太平洋レビュー』、査読有、第 12 号、2015、17－26
③ 石　純姫、「北海道でアイヌ民族と朝鮮人は記憶されているか（2）―白老民族共生空間」、『東アジア教育文化学会ニュースレター』、査読有、第 11 号、2013、3－4
④ 石　純姫、「北海道でアイヌ民族と朝鮮人は記憶されているか（1）―平取町「振内共同墓地」、『東アジア教育文化学会ニュースレター』、査読有、第 10 号、1－2

〔学会発表〕（計　５　件）
① 石　純姫、「近代期北海道における朝鮮人の移住と定住化の形成過程―アイヌ民族との関係と重層性」、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター定例研究報告、2016 年 2 月 20 日、於：大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター東京麻布台セミナーハウス
② 石　純姫、「日本人・日本文化の多様性と重層性―近代期北海道におけるアイヌ民族・朝鮮人・日本人」、山梨県立大学創立十周年記念シンポジウム（招待講演）、2016 年 1 月 19 日、於：山梨県立大学
③ 石　純姫、「東アジアにおける記憶の表象―近代期のアイヌ民族と朝鮮人の繋がりを中心に」、北海道大学メディア・コミュニケーション研究共同研究会（招待講演）、2015 年 10 月 9 日、於：北海道大学
④ 石　純姫、「近代におけるアイヌ民族と朝鮮人―重層的つながりと記憶の継承・表象」、第 9 回東アジア教育文化学会学術シンポジウム、2013 年 8 月 17 日、於：苫小牧駒澤大学
⑤ 石　純姫、「レイシズムの現在・記憶の闘争―アイヌ民族副読本書き換え問題・朝鮮人遺骨・表象」、第 8 回東アジア教育文化学会、2012 年 8 月 19 日、於：大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター東京麻布台セミナーハウス

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
「北海道における朝鮮人の移住　アイヌ民族とつながりにおける重層的アイデンティティー」科学研究費助成事業中間報告書
2012～2015 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金　基盤研究（C））
http://www.t-komazawa.ac.jp/pdf/soku.pdf

６．研究組織
(1)研究代表者
石　純姫　　（ SEOK Soon hi ）
苫小牧駒澤大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：60337102

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：